

BCAO関西支部 令和4年8月度（第171回）勉強会 議事録

1. 日時：8月24日（水）18:50～20:30
2. 場所：Zoomにてのオンライン会議（司会：飯田 書記：別役）
3. 出席：飯田、大館、田中、柳父、鷲山、萩原、中村、西濱、徳山、野原、上辻、寺岡、湯地、寅屋敷、中嶋、柳本、別役（計17名）
4. 勉強会：発表内容
 - （1）テーマ：学校に関するリスク管理について
 - （2）講師：乃亜フレンドリー・ネットワーク 田中 実氏
 - （3）内容：以下のとおり
 - ①講師紹介と活動内容
 - ②学校防災事例紹介
 - ③新型コロナ対策
 - ④学校防災マニュアル
 - ⑤地域の災害と対策を知る
 - ・自治体における女性の防災担当者が少ない。女性の視点が必要である。
 - ・正常性バイアスに陥ることなく、自分の事として防災に取り組むことが大切。
 - ・学校防災アドバイザー事業ならびに防災士会活動の一環として、学校の防災訓練や防災計画の策定支援を行っており、これまでに培った専門知識に加えて各方面の業界ネットワークが役に立っている。
 - ・学校防災の現場でも、ドローンやIT機器を活用することがトレンドになりつつある。
 - ・教育現場における教員の裁量を明確にすることで、防災への組織力が強化されるのではないかと感じている。
 - ・学校は地域防災の活動拠点にもなることから、もっと行政機関と連携した体制づくりがあっても良いと思う。感染症対策にも目を向ける必要あり。
 - ・防災知識を身に着けるため、小学生向けの簡単なクイズを用意している。小学生の意見や感性は大人が思っている以上に鋭い。
 - ・今後の課題として、防災に関する教職員の意識改革とハード面の整備（建物の耐震化や職員室の整理整頓、安全な避難場所の確保）は計画的に進めていく必要がある。また、授業参観に合わせて防災訓練を実施することも有効である。
 - ・学校防災マニュアルの策定は、生徒や教職員だけではなく、非常勤の先生や校務員、給食を配膳する方を含めた関係者の知恵を集めることでより実践的かつ有効なマニュアルとなる。そしてマニュアルに基づく訓練が大切である。
 - ・自分たちの生活拠点である地域のこれまでの災害を知ることで、必要な情報収集や自発的な防災への備えが期待できる。

● 質疑応答ほか

Q. 企業と学校の防災活動はどのような違いがあるか？

A. 企業はお客様が一番だが、学校の場合は生徒なのか保護者なのか曖昧。個人的な裁量で動く場合もあるが格差がある。組織も複雑で企業のような組織運営はできていない。統率・統治力が見えづらい。そこが一番の相違点。

Q. 学校は企業以上にリーダーの動きが大事だと思われるが、先生に対しての教育訓練や人材育成はどのような取り組みをしているか？

A. 防災管理の位置づけが明確になっていない。防災教育のリーダー的役割を担ってほしいような教師には個人的にアプローチし、教育・訓練の機会に参加してもらうよう働きかけている。校長に支援してもらえるように動いている。

Q. (田中さんより) 学校法人勤務の別役さんに、アドバイスがあれば伺いたい。

A. (別役さん) 学校の安全計画は学校保健安全法に基づいているが、教職員が法律を知らない。防災マニュアルの作成は義務になっているが、できていない。

Q. 学校の防災行事だけではなく、コミュニティ活動に落としたいが、学校から賛同を得られない。どう対応されていますか。

A. 大阪府教育長から委嘱されて学校防災アドバイザーを務めている。支援に対して学校が応募する形がとられているが、災害が増えているにも関わらず応募が増えていない。教育の時間に支障が出るなどの意識が働いている。校長にアプローチし、動いてもらうよう働きかけている。また企業・自治体の防災取り組みと連携させる必要もあると思う。

その他、田中講師の取り組みが紹介された新聞記事の内容に関連し、地域の防災活動、地域貢献活動を推進するうえでの課題や問題点などについても意見交換を行った。

以上